

令和5年7月定例記者会見要旨

開催日時 令和5年7月25日(火) 午前10時30分 302会議室

(総務部長) おはようございます。常日頃より大変ありがとうございます。ただいまより7月の市長定例記者会見を開会いたします。

(市長) 皆さんこんにちは。日頃は当市行政にご協力いただきありがとうございます。3日前のよいてこ祭りの時に梅雨明け宣言となり、暑い夏がやってまいりました。4年ぶりのよいてこ祭りでしたが、大変多くの皆さんに参加していただき、子供たちもすごく喜んで祭りに参加してもらっている姿を見て大変嬉しく思った次第です。暑いさなかですが、これから8月に向けて記者クラブの皆さんも体調など気をつけられながら、ご協力をよろしくお願いいたします。それでは、皆さんのお手元にお配りをさせていただきました資料に基づきながら、順次説明させていただきますと思います。

最初に、「諏訪市文化センター改修に関する市民向け説明会」の開催についてです。7月30日午後4時から現地見学会、5時から説明会を文化センター2階の第2集会室で開催します。ご承知のように、6月定例会で文化センターについて課題があると議会から指摘されました。その主だったポイントにつきましては、市民の理解が行き渡っていないのではないか、コンパクトシティの重要な施設を一体的に整備するという意味等についても、理解が十分ではないのではないかとのご指摘でございました。これを受けて、ちょうど「ゆかり市長とまちかどトーク」が開催中だったため、第2回目から急遽文化センターに関する解説を重点的に入れ、市民理解を深める努力をしてまいりました。同時に、様々な関係する団体の皆さんからもご心配の声や様々なご意見が寄せられておりますので、丁寧な説明を加えながら鋭意努力を重ねている最中であります。また、市民第一会派の皆さんにおかれましても、議会側として、本日、市民を集めての説明会を開催していただく段取りで、双方協力をしながらこの課題について解決に向けて努力をしているという最中であります。ぜひ多くの皆さんにご参加いただきたいと思います。

次に、「長野県パートナーシップ届出制度」が8月1日からスタートすることになりました。長野県のサービスにつきましては、配布資料の黄色い網掛け5項目について全県統一でスタートいたします。県が指定する共通5項目は、市営住宅への入居申込み、保育施設への入所申込み、保育所への送迎、児童クラブへの送迎、罹災証明の代理申請の5つであります。これらに諏訪市独自の行政サービス9項目を加え、計14項目について8月1日にサービスの提供を開始するものであります。昨年度「第7次諏訪市男女共同参画計画」が策定されておりますが、このテーマにも「多様性を認めあい、誰もが自分らしくいきいきと暮らせる諏訪市をめざして」を掲げており、県の制度趣旨とも合致するものです。今後も県と連携を取りながら、多様性を認めあい、誰もがいきいきと暮らしやすい諏訪市を目指して取り組んでまいりたいと思っております。

次に、「第75回諏訪湖祭湖上花火大会」についてです。4年ぶりの開催ということで、多くの皆さんにご期待いただいたり、また今日に至るまで慎重に丁寧に準備を進めているところですが、関係の皆様のご協力に心から感謝を申し上げます。事業所の協賛金は8,138万5,000円(収入予定額を含む。)、237件の申し込みをいただき、これは過去最高額となりました。前回の第71回大会は7,565万円余、257件でありました。今までの最高額は第70回大会で8,049万7,000円余でありましたので、今回実に厳しい経済状況の中であるにもかかわらず、諏訪湖祭湖上花火大会に寄せる皆さんのご理解とご支援に感謝申し上げます。チケット販売の受付状況ですが、特別マス席、一般マス席、一般ハーフマス席はす

べて完売いたしました。マス席以外につきまして、ブロック指定席、石彫公園エリア指定席、カメラマン席は完売しております。湖畔公園エリア指定席は約1,000席残っております。車いす席はまだ若干残りがあるということで、これらにつきまして7月28日午前10時からチケットぴあにて再販売いたします。先着順で埋まりますので、どうぞこのチャンスをお見逃しなく応募をよろしくお願いいたします。この湖畔公園エリア指定席は、諏訪湖の初島に向かって右側、ホテル紅やからしんゆの前の公園エリアであり、座席の番号はKの場所になります。是非多くの皆さんの申込みをよろしくお願いいたします。また、事前予約制の駐車場につきまして、7月19日現在の予約状況は全11の臨時駐車場2,466台中、予約数が1,433台（予約率58.1%）でございます。

8月24日に第153回長野県市長会の総会が諏訪市で開催されます。RAKO華乃井ホテルを会場としまして、諏訪市がホスト市として開催になります。

8月27日に諏訪市の地震総合防災訓練を開催いたします。今まではコロナで縮小あるいは本部の訓練ということで、多くの市民の皆さんを集めての防災訓練は大変久しぶりになります。南海トラフ地震を想定し、諏訪市災害対策本部の設置、発災時の対応、市民と市が連携した避難所等の設営や運営訓練、これは市民を巻き込んでの設営訓練でございます。また、関係機関との連携協力等についての訓練を行います。対策本部では状況付与型の図上訓練を実施し、初動期における本部員及び各対策部職員が行うべき意思決定や役割、行動の確認及び応急対策上の課題を把握します。今回は、児童・生徒に対しての訓練を通じた防災教育も視野に入れて行います。市内の全地区でも、主体的に区や自主防災会へ防火防犯組合単位で実施されます。総合訓練は、今回諏訪中学校をお借りし、対象区域は清水1～4区、角間町区、赤羽根区、武津区、細久保区、普門寺区になります。南海トラフ地震臨時情報を受信し、マグニチュード9.1規模の地震が発生したという想定で、震度6弱の揺れによる被害発生、災害応急対策の一連の流れを訓練する予定です。今回諏訪市で初めて緊急速報メールのテストをします。諏訪市におられる方々の全機種に対して緊急速報メールで事態の発生を事前に報告いたしますが、大きな音で携帯が鳴りますので事前にお知らせ申し上げたいと思います。

8月29日には9月定例会を招集いたします。

9月30日に開催される「上諏訪街道まちあるき呑みあるき」についてです。5年前に様々な課題から一旦中止となり、コロナの影響もあり、なかなか再開できませんでしたが、私が会長をお引き受けし、お酒を飲みながら歩く方の危険性等がかつて課題になっておりましたので、国道を歩行者天国とすべく通行止めにするということについてご理解いただくことができました。国道20号を止めてのイベントの開催は初めてとなります。チケットは4,000円で3,500枚販売いたします。7月26日の10時からチケット販売サイト「イープラス」でスタートいたしますので、この場でご案内をさせていただきたいと思っております。このまちあるきと呑みあるきを連携し、催事の開催時間を午後1時から5時までとして周辺を歩いてもらうことで、帰りにまた街の中の賑わいを作っていただくことを意図しながら開催いたします。今回は五蔵の試飲をするのはもちろんのこと、諏訪あるいは長野県の食の魅力を経験していただける郷土のつまみ屋台が出ます。また、歩いて楽しむ街の散策のご案内もさせていただき、諏訪市、諏訪地域の魅力を発信する諏訪地域魅力発信コーナーも設けさせていただき予定です。チケットの引換会場は、JR上諏訪駅前のアーク諏訪の2階でございます。メイン会場の諏訪市五蔵街（諏訪2丁目の交差点から元町の交差点まで）は12時から18時まで歩行者天国となります。ぜひ多くの皆さんにご参加いただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

（8月の日程説明等）

- 諏訪湖サマーナイト花火
7月28日(金)～8月27日(日)
- 諏訪湖浄化対策連絡協議会意見交換会
8月2日(水) 午後1時30分 大会議室
- 蔵前・如水・理窓スマイリンクセミナー
8月5日(土) 午後1時00分 文化センター
- ライフドアすわ開所6周年記念講演会
8月5日(土) 午後2時00分 総合福祉センター
- 諏訪市戦没者追悼式
8月19日(土) 午前11時00分 総合福祉センター
- 令和6年度予算編成(実施計画策定)会議
8月21日(月) 午後3時00分 大会議室

蓼科保養学園が100周年を迎え、7月29日から9月24日まで諏訪市博物館をお借りして「ありがとう・あの時を忘れない 蓼科保養学園・メモリアル 未来を創る子どもたちに寄り添ってー思いを紡ぐ100年物語ー」というタイトルで特別展を開催いたします。蓼科保養学園は医師の小澤侃二先生が中心となり、大正12年(1923年)に当時上諏訪町でしたが、子どもたちを連れて保養訓練を行ったことが始まりになります。戦後は諏訪市に移管され、昭和27年(1952年)に児童福祉法に基づいた通年の施設となりました。児童の健康づくりを行う全国でも稀な施設でしたが、コロナ禍で閉鎖が続き、施設の老朽化もあった中で、令和4年度末に惜しまれつつ閉園となりました。展示では蓼科保養学園の歴史と変遷を辿りながら、関係者が思い出を懐かしむことができ、またこれから新しい健康教育へシフトしていく展望の機会になるようにと考えております。初日の7月29日には小澤侃二先生の孫に当たる小澤正英様、医師会の先生方、関係者をお招きし、そのオープニングセレモニーをする予定です。期間中は講演会や元児童指導員や保育士、他関係者等の懇談会や学園名物の竹馬の制作イベント、動画の上映会なども計画しております。子どもたちや職員が学園で過ごした様子を年代ごとと比較できるようにした展示をするほか、戦前の保養訓練、小澤侃二先生の生活の様子のビデオや昭和56年撮影のLCVの番組を上映するなど様々な企画を入れてまいります。蓼科保養学園在籍経験者であり、画家の橋口優さんに原画を書いていただいた「思い出の樹 未来へ」も展示いたします。来館者に一言メッセージを付箋に書いてもらい、そこに貼り付けていく参加型のイベントも計画しておりますので、ぜひとも取材をよろしく願いいたします。オープニングは7月29日午後1時半からの予定です。また、8月6日と9月3日の10時から15時に蓼科保養学園の現地見学会を行います。

お手元に不明水の関係の資料を配布させていただきました。このところ集中的な雨が降る時に下水の節水のお願いをしております。諏訪の下水道方式は、汚水と雨水を分けている分流方式を採用しております。その地域の汚水は諏訪市豊田のクリーンレイク諏訪に集められ、高度処理されて諏訪湖へ綺麗な水として放流されております。諏訪市は諏訪管内と立科町の7市町村の最下流ということで、この豊田の終末処理場(クリーンレイク諏訪)を引き受けております。ところが、近年大雨時に下水道管に雨水や地下水などの不明水が大量に流入し、トイレが使えないなど支障をきたす事象が起きてまいりました。不明水は、晴れた日では汚水量の約3割位ですが、大雨が降った時などは爆発的に増えており、先月6月2日や令和3年8月14日にも豪雨によりトイレなどが使えない状況が発生いたしました。そのために、汚水、不明水を減らす必要がございます。当市は最下流域で影響を最も受ける地域であるために、危機

感を持って諏訪湖流域下水道事務所や関係市町村と連携して対応を急いでいるところであります。汚水については、大雨時にお風呂の水を払わない、洗濯を控えるなどのできる範囲での節水の協力を防災無線などを通じて呼びかけております。不明水については、昨年、県より県管理の流域下水道管への雨天時の浸入水の基礎調査が行われました。この流域下水道事務所は雨天時浸入水対策計画を策定したところであります。関係市町村では、この計画をもとにそれぞれの下水道管への不明水の調査を開始しております。これと並行して、これまでも雨水の入りやすい古いマンホールは防水型の新しい二重のタイプのものに取り替えることもしてまいりました。県の流域下水道事務所では、6月2日の事象以降大雨が予測される時には、処理槽の汚水量をあらかじめ下げるなどの対策をしています。しかしながら、調査と次の取水工事などの不明水対策にはまだ時間がかかる見込みであり、市民の皆様には今後も集中的な雨等があった場合に節水へのご協力をお願いしていくこととなります。非常時にも自宅でできる簡易トイレの作り方を諏訪市のホームページにもアップいたしましたので、ご協力をお願いしたいと思います。

下水道管の延長距離ですが、流域管は約55km、公共下水道管は317kmという大変長い延長を管理しております。マンホールの数は諏訪市は1万3,105個で、下水道の普及率は諏訪市は99.5%、流域全体で99.4%という大変大きな施設であり、この不明水がどこから入っているのかという調査についてはまだ時間がかかるということをご理解いただきたいと思っております。

記者との質疑応答

○文化センターの改修事業について

(記者)文化庁の補助金を受けるかの方針は。市民や議会の合意は。

(市長)7月末が一つのリミットと認識しております。それに向けて議会側、市役所側も市民理解を深めるために努めている段階であります。議会の理解を深めていただくため、今月中に議員の皆さんに対してより詳細な説明を加えていく準備を進めている段階でもあります。それと同時に、市民に対しても7月30日の説明会、個々に関係する団体や皆さんに対してもそれぞれに理解を深めていただいている状況にあります。

(記者)市民第一会派が開く「市民の声を聞く会」についての受け止めは。

(市長)6月議会において議会側が課題とされたことは、市民やそして皆さんの理解が足りないのではないかとということでした。我々もそのことをしっかり受け止めて対応すると同時に、議会側としてもそうした努力をされている上での開催と受け止めております。

(記者)議会側との調整の進展状況は。

(市長)私が再議をかけないと判断する場面において、議会の中心的な役割を果たす方々とお話ししました。今回の議会のご指摘については、二元代表制の一方の議決機関であり、意思決定機関である皆さんのご意向は尊重いたしますとお伝えし、その上で今回の修正された予算は、文化庁の補助の内示を受けている大事な予算であり、これを断ることの影響の大きさが大変心配であることをお伝えし、最終的にこれを返上することによって今後文化センターに対して改修など対応していくことにおいて、県や国を巻き込んでご迷惑をおかけすることは本旨ではないとお伝えしました。議会と我々は車の両輪であって、最後には市民に負担を強いるようなこと、あるいは諏訪市全体としてその信用を失うことにならないために双方力を合わせて努力しようではないかとお話しし、承知していただいております。その上で市民理解を得るための手

続きを重ねていることと私も理解しており、議会側もそのように承知していただいていると思っております。

○市民向け説明会について

（記者）市民第一会派の皆さんと協議した上で開催するのか。

（市長）30日の開催については、すでにお伝えしています。そして、その前に議員の皆さんに市民に対する説明と同じ、あるいはそれ以上の説明をする機会を作りたいこともお伝えしております。

（記者）全協を開くということか。

（市長）やり方については議会側が決定されると思いますので、私たちの方からは申し入れということで議会を代表される皆さんにお伝えしてあります。内容については議会で決定されると思います。

○市政懇談会について

（記者）市民からの意見の受け止めは。

（市長）双方の意見をいただいたと受け止めております。ご心配をされる方も、市の財政が大丈夫かというご意見もありましたし、一方で主体的に情報を獲られてよく分析した上で、思い切ってやって欲しいというご意見もいただきました。私の反省として、今回三つのコンパクトシティ計画の中に位置づける中心的な施設を一体的に取り組んでいくことについて、選挙直前であったためにmanifestoに掲載し、manifestoを通じて市民の皆様にはしっかりとお伝えしたという認識が強かったために、行政として段取りや皆さんにお知らせしていくことが十分でなかったことが今回の市議会の皆さんのご指摘ではないかと感じております。多くの皆さんにわかっていただくよう、鋭意努力中でありま。

○文化庁の補助金について

（記者）補助金を受け取るかどうか国に伝える時期は。

（市長）多くの皆さんにご迷惑をかけないために決断すべきが7月末と承知しておりますので、7月末を境にそのあたりと思っております。

（記者）議会の承諾は得たいと考えているか。

（市長）議会が議決機関であるので、予算が通らないと返上しなければならないことになりま。それまでに議会の皆さんのご承認をいただけるよう、最大級の努力を続けてる状況です。

（記者）9月議会定例会よりも前の段階で臨時会の招集も考えているか。

（市長）確実に予算執行ができることを求めるのは私の責任だと思いますので、あらゆる可能性を求めて対応していきたいと思っております。

（総務部長）これをもちまして、7月の定例記者会見を終了します。どうもありがとうございました。